

下シライトソウ (二上山)

シライトソウ、ギンリョウソウが咲き始めました



二上山の各所でシライトソウが咲き始めました。白糸草。ユリ科シライトソウ属。「ブラシみたい」と言う人もいますが、花はか細く、上品、ちょっと寂しげかな。溪流沿いや木陰にひそやかに咲きますが、二上山では雌岳山頂近くにもほっそりした姿を見せています。注意してよく見れば、祐泉寺からの登山道でも、溪流の崖に花茎をすらりと伸ばしたシライトソウを見ることができます。

林の中ではギンリョウソウが枯葉の中から頭をのぞかせています。銀竜草、イチヤクソウ科ギンリョウソウ属。葉緑体をもたない真っ白な変わった植物。幽霊茸(ゆうれいたけ)と言う可哀想な別名をもらっていますが、葉も花もあるれっきとした植物です。



頭を出したギンリョウソウ↑

私の中・高校生頃の頃、この植物は「自らは光合成をせず腐植土の養分で生活する腐生植物」とされていましたが、正確には土壤中の菌類から養分をもらうそうです。

この「植物と菌類との助け合い=共生」は多くの植物で見られ、自然界では「食べる、食べられる」の関係と共に「依存し、助け合う」関係でも多くの生物が複雑に関連しあって生きているのですね。

山の花も同様にたくさんの生き物と関連しあって生活し、咲くわけですから、そういう条件の乏しい都会の家庭に持ち帰っても多くの場合枯れてしまいます。自然の中で咲く美しい姿を皆で楽しみたいですね。

下 テイカカズラ

甘い香り漂わせるテイカカズラ

山でこの香りに包まれると「夏はきぬ」の歌が思い出され、歩きながらホトトギスの初音が聞こえないかと耳をすませてしまいます。

花を満載して垂れ下がる卵の花=ウツギも確かに初夏の風物詩ですが、香りでは、やや濃密ですが矢張りテイカカズラでしょう。もうすぐ谷筋でも、あのスクリー型の花を咲かせるでしょう。



ふと見ればフタリシズカが

岩屋峠から祐泉寺に下る途中で、道の脇にフタリシズカ（二人静・センリョウ科センリョウ属）が花をつけています。瑞々しい濃緑の葉に白い2～数本の穂状花序をたてて、つつましく咲いています。



上 フタリシズカ

花の名は、源義経の愛妾静御前にまつわるもので、静御前の霊が、自身の乗り移った女性と共に同じ衣装で舞を舞って、吉野山勝手神社の神職に弔いを頼んだという物語に由来します。その由来にふさわしく、清楚な感じの花なのですが、同じ仲間の可憐なヒトリシズカと比べられて損をしていると私には思われます。

ヒトリシズカ（センリョウ科センリョウ属）は別名吉野静で文字通り静御前の吉野での舞い姿に花の様子を見立てています。

静御前と言えば、大和高田がそのゆかりの地とされ、歌碑、衣掛けの松など「静御前めぐり」のマップが発行されています。



上 シロヤシオ

行者還岳の花たち

5月21日二上山早朝登山グループで吉野天川村の行者還岳に登山。緑したたる初夏の山を満喫し、そこに咲く魅惑的な花々に会ってきました。

上シャクナゲ シロヤシオ、シャクナゲ、ヤマシャクヤク、タニギキョウ、クサタチ

バナ、ワチガイソウ、オオカメノキなどが登山道を飾り、ウグイス、ツツドリ、ジュウイチの鳴き声が響いていました。

左 縦走路＝奥駈道

下 ヤマシャクヤク

以上 91号

